

青雲館新聞

発行 青雲館
秋田県立横手高等学校
青雲館
◎ 出版委員会

〒013-0037
秋田県横手市前郷二番町
10番1号
Tel. 0182-32-2011
FAX 0182-32-0133

思い出の学舎に惜別 青雲館から旅立つとき

令和三年度卒業式

卒業証書授与式が三月三日（木）に体育館で執り行われる。今年度も昨年度に引き続き、卒業生と保護者、教員のみで挙行されることとなった。別れの時を見届けられないのは悲しいが、かけがえのない仲間との高校生活最後の思い出を悔いの無いように迎えて欲しい。



晴れた日の校舎

生徒会長の決意表明

2A 飛澤 華凜

この度新生徒会長に就任しました、飛澤華凜です。今年度の生徒会は積極性を大切にしながら、新たな青雲館の個性を確立していきたいと考えています。例えば地

域の方との共同活動を企画し、地域に根ざした学校作りをおこなっていき等です。それと同時に生徒の皆さんの意見を取り入れながら、少しでも過ごしやすい学校だと思ってい

けるよう、アンケートの実施や問題点の洗い出しに生徒会全体で尽力します。新型コロナウイルスの影響で、すでにいくつかのイベントが中止になってしまい、運営を務める機会が少なく非常に残念に思います。今年度もしばらくはこの未曾有のパンデミッ

クに苛まれる一年になってしまふかと思いますが、感染症対策をしっかり行い乗り切りましょう。残りの一年を皆さんと楽しく作り上げたいと思いますのでよろしくお願ひします。

生徒会

令和三年度の後期卒業式が三月三日に執り行われる。今年度は三年次生十名、四年次生十五名の計二十五名が卒業する。卒業する3Aの小河原青空さんは、「学生は社会人よりも時間があるの

で、今のうちに勉強やアルバイトなどに積極的に取り組み、視野を広げて欲しい。実りのある学生生活を送ってください。」とコメント。4Aの佐藤哉斗さんは「4年間様々なことがあった。辛かったことも楽しかったことも、僕にとっ

てかけがえのない宝物になっていく。青雲館で学んだことをこれからの進路に活かしたい。」とコメントしてくださった。これまで私達の先頭に立ってくださった先輩方が居なくなってしまうことで少し不安を感じる面もあるが、これまで築いてこられた伝統を今度は私達がしっかりと引き継いでいきたい。

2A 飛澤 華凜

令和をどう生きるか

2019年師走、武漢で多発した謎の肺炎は瞬く間に世界へ広がった。あれから二年以上たった今も拡大は止まらない。今回のような感染症が世界的に大流行する事をパンデミックと言う。パンデミックで一番有名なのはペストだろう。十四世紀の流行は特にひどく、ヨーロッパ全人口の四分の一が亡くなったとされている。また、天然痘は紀元前から私達を苦しめ、それによって滅亡した国もある。このように

パンデミックは長い歴史の中で幾度となく繰り返されてきた。そしてよく分らない偉い人は言っている。過去の出来事からは学びやヒントがある。過去を学べば先の見えないコロナがいつ終息するのか、予想をたてることも出来るかもしれない。予想が当たったらすごいのではないか。早速考えてみよう。

上記で紹介しなかった有名な感染症がある。スペイン風邪だ。ちなみにスペイン風邪はスペイン発祥ではない。アメリカが発祥とされている。ではなぜスペインという名前がついたのか？歴史好きなら知ってる話かもしれない。今から約百年前は、第一次世界大戦の真っ只中だ。戦争中という事で、当時の国も謎の感染症でバタバタと人が倒れている事実を隠そうとした。しかし中立国であったスペインだけはその事実を報道してしまう。それ故誤解が広まったのだ。なんだか不憫な話である。スペイン風邪は1918年から広がりが1920年の春に終息した。死亡者数は一年間で5000万人以上。なんと第一次世界大戦で亡くなっ

た人数より多い。二年弱というコロナより短い期間で終息しているがこれは短期間に多くの人が感染したことで集団免疫が出来たのが影響の一つらしい。つまり、残念ながらコロナの終息予想には参考にしないようだ。しかし、忘れてはならない事がある。人類は何度もパンデミックに見舞われながらも、その度に乗り越えてきた歴史がある。長いコロナ禍も実は終わりはすぐそこまで来ているのかもしれない。

2A 佐藤 瑞穂
2B 永田 真唯

防災訓練・避難所設置、運営講習

令和三年十二月十日（火）に防災訓練及び避難所開設が行われた。防災訓練では、地震や火事を想定した避難訓練が行われた。避難所開設訓練では、間仕切りテントの設置や段ボールベッドの組み立て方を学び、その後、感染症予防を視野に入れた運営方法を、実践を通して学んだ。



前年度と比べて、規模を拡大して実施したが、例年とは違い、新型コロナウイルスの影響により地域の方々の参加は得られなかった。今回は、新型コロナウイルス感染症防止の観点から、エプロンの着脱を含めた訓練も行われた。

参加した生徒からは、様々な声が挙がっている。今回の防災訓練では、今までにないくらい本格的だと思えました。避難用のテントや個室トイレ、感染症を避けるためのエプロン、マスクなどの着用など様々な体験を見ることができました。今回で習ったことは忘れずに、もしも災害が起こったときは、習ったことを活かして周りの人よりも率先して動けるようになりたいです。まずは自分の命は自分で守り、余裕があるなら周りの人のサポートをできる人を目指したいと思います。

2B 佐藤 翔琉

今回の防災訓練では、避難時みんな喋らず迅速に避難できていて良かったと思います。また、今回は簡易テントの設置や段ボールベッドの組み立て、避難受付のやり方なども教わり、私は簡易テントの設置を体験しました。初めてだったので戸惑うところもありましたが、無事に建てることができました。今回の訓練を通して、災害はいつ起きてもおかしくないと感じて実感し、もし災害が起きたときは冷静に動けるようにしたいです。

1B 柿崎 宗良



設置されたテント



